

2009.12.24

日本赤十字社血液事業本部

新採血基準移行への準備について

平成 20 年度に「献血推進のあり方に関する検討会」が設置され、今後の献血の推進方策について、さまざまな角度で検討し、その結果が同検討会報告書(平成 21 年 3 月 10 日付厚生労働省医薬食品局血液対策課「献血推進のあり方に関する検討会報告書」として提言された。

同検討会報告書には、社会や学校の環境変化に対応した献血推進方策並びに採血基準の見直しに関する方策等が以下の項目別に示されている。

■ 社会や学校の環境変化に対応した献血推進方策

- (1) 高校生献血のあり方
- (2) 学校教育における啓発
- (3) 献血環境のあり方
- (4) メディア等を活用した広報戦略のあり方
- (5) 低比重者などへの対応
- (6) 200mL 献血の今後のあり方

■ 採血基準の見直し

- (1) 400mL 全血献血採血基準の下限年齢の見直しについて
- (2) 血小板成分献血採血基準の上限年齢の見直しについて
- (3) 採血基準項目における「血液比重又は血色素量」について
- (4) 「年間総採血量、採血回数、採血間隔」及び「男性の血色素量最低値」について

これらの提言を受け、今後、国、地方公共団体及び日本赤十字社が具体的にどのように事業を進めていくかについて、短期的に実施可能なもの、中長期的に対応することが必要なものに分類・整理し、明確な目標を定めた行動計画が作成された。今回、新採血基準移行への準備として、日本赤十字社が既に取り組んでいる事項並びに今後取り組んでいく予定である事項について、行動計画一覧に記載されている具体的事項別にその進捗状況を報告する。

1. 採血時におけるリスクとその対応策を事前にわかりやすく情報提供(HP、印刷物、献血現場の表示等)

(1)事前説明

ア 初回献血者向け事前説明用 DVD の作製

内 容	学校献血会場及び一般会場での事前説明時において、事前にビデオ映像を視聴していただくことにより、初回献血者が持っている不安等を払拭し、採血副作用の防止の一助とする。 内容としては、初回献血者向けに献血の手順や献血後の過ごし方等、献血前の事前説明に重点を置いたものとする。
運用開始時期	採血基準変更時期

イ ホームページの改修

内 容	献血の意義及び感謝並びに献血者の安全性確保のための献血時におけるリスク及び採血副作用防止への注意事項等を、事前に献血者へ情報提供する。
運用開始時期	平成 21 年度末

(2) 献血会場入口

ア 固定施設における映像配信システム(デジタルサイネージシステム)

内 容	<p>献血の意義及び感謝並びに献血者の安全性確保のための献血時におけるリスク及び採血副作用防止への注意事項等を、献血会場に入る前に献血者へ情報提供する。</p> <p>同システムについては、平成 21 年 11 月から全国の各赤十字血液センター及び献血ルームに順次導入を開始し、平成 22 年 1 月下旬には完了する予定である。</p>
運用開始時期	平成 21 年度末

(導入例)

[岡山県赤十字血液センター 表町出張所]



[秋田県赤十字血液センター 御所野出張所]



(提供情報例)

- ① 献血基準
- ② 献血の手順
- ③ 受付時に配布している「お願い」情報
(献血前・献血時・献血後 等)
- ④ 欧州等滞在歴の献血制限情報
- ⑤ 輸血用血液製剤の在庫情報
- ⑥ 献血推進に係る広報(CM 素材)
- ⑦ 献血推進キャンペーン情報
- ⑧ 血液の知識

イ タペストリーの作製

内 容	献血の意義及び感謝等を明示したタペストリーを全献血会場入口に掲示し、献血者へ「献血の目的」の意識付けを行うことにより、献血の啓発を行う。
運用開始時期	平成 21 年度末

(イメージ図)

初めて献血いただく方へ

本日は献血にご協力いただきありがとうございます。
その勇氣にとても感謝いたします。

本日、献血いただいた血液は、患者さんのもとへ届きます。

献血は...

1. 体の中に血液は、体重の13分の1の量が流れています。
(体重65kgの方は、約5000mLです)
その15%以下を献血しても体に影響ありません。
(体重65kgの方は、約750mLです)
2. 献血には基準があります。
献血前に、血圧や血液の濃さ
(貧血かどうか)を測定します。
また、医師が感染症などの検査
を行います。
3. 献血で使用する注射針は、
すべて使い捨てで、病気に
感染することはありません。

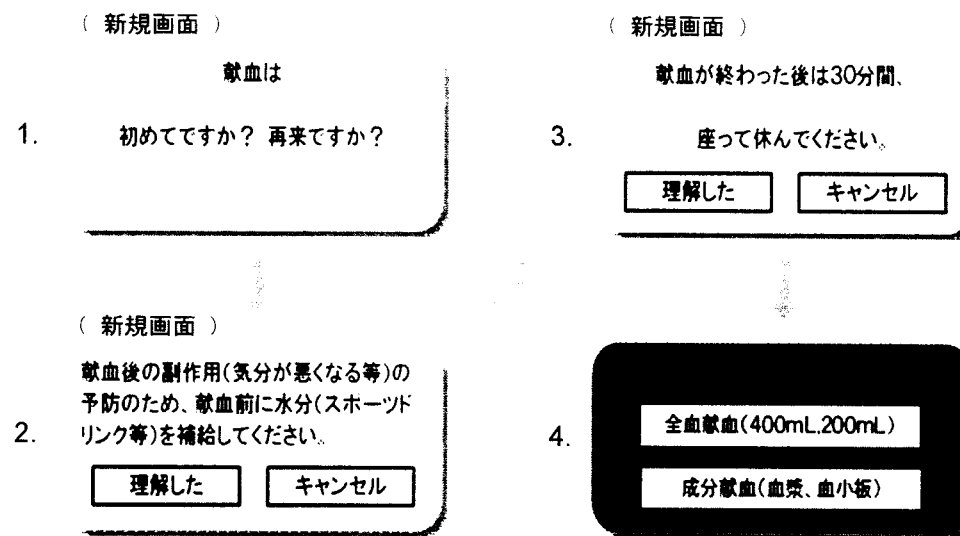
まずは... 受付へどうぞ

ご不明な点やご不安な点がございましたら、
お気軽にスタッフにおたずねください

(3)受付

ア 初回献血者向け映像等の作製(移動採血の再生機器整備及び問診タッチパネルの改修)

内 容	初回献血者に対して、献血後の過ごし方等の注意事項を動画等で提供することにより、採血副作用の防止のための注意喚起を行う。献血者は、移動採血は再生機器で視聴、固定施設は問診タッチパネルで視聴する。
運用開始時期	採血基準変更時期



イ 血液事業統一システムの改修

内 容	改訂された採血基準に適合したシステムとする。
運用開始時期	採血基準変更時期 (9頁、「問診票改訂・採血基準の見直し」に係る血液事業統一システムの改修作業日程(予定)参照)

(4)事前検査

ア 採血基準を血色素量に統一

内 容	欧米では、硫酸銅比重液を採血基準の判定に用いている国は少なく、判定結果の客観性向上のためにも血色素(ヘモグロビン)による判定統一する方向で検討する。現在、国内で使用できる簡易型ヘモグロビン測定装置は 1 機種のみであるが、危機管理上の面から 2 機種以上の機器について評価、追加導入を検討している。なお、すでに全国 37 の血液センターで簡易ヘモグロビン装置による血色素判定に移行しており、今後、硫酸銅比重液の使用量の低下により、メーカーの生産中止が予想されることから、血色素判定に統一する。
運用開始時期	採血基準変更時期

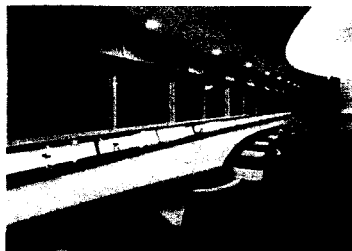
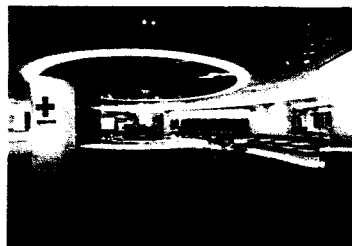
2. 採血後十分に休憩できる環境整備

ア 献血ルーム等における献血後休憩スペースの拡張等

内 容	<p>献血ルーム等の固定施設において、施設面積、献血者数及び改装計画等の調査を行い、実態を把握する。</p> <p>社内の施設基準検討プロジェクトにおいて、採血室・待合スペース等の標準レイアウトの検討等を実施し、施設の平準化を図りガイドラインを策定する。また、設計に関する専門家(外部コンサルタント)の意見も反映する。</p> <p>献血バスについては、機能の充実を図るための変更(車両改造)及び他の車両(接遇車両等)・設備等について検討を行う。</p>
運用開始時期	平成 22 年度

(平成 21 年度以降の環境整備の実例)

〔akiba:F 献血ルーム〕



〔献血ルーム吉祥寺タキオン〕



2009.12.24

日本赤十字社血液事業本部

3. 採血後の献血者の安全確保にあたる者の確保

内 容	学校献血会場等において、血液センター退職者等の献血受入経験者や学生ボランティアにより、献血者の安全確保及び献血に関する説明等を行う。
運用開始時期	平成 22 年度

”問診票改訂・採血基準の見直し”に係る血液事業統一システムの改修作業日程(予定)

作業内容	作業期間			平成22年												平成23年								
	開始	終了	期間	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
英国渡航歴対応	-	10/01/31	4.0ヵ月																					
開発期間	09/09/17	10/01/07	3.7ヵ月																					
評価期間(受入試験)	10/01/08	10/01/15	0.3ヵ月																					
受入承認	-	2010/1月中	-	★																				
問診票・採血基準同時対応		11/03/31	14.0ヵ月																					
要件定義作業	09/04/10	09/12/18	H21.4より準備																					
契約作業(決裁等)	09/12/20	10/01/20	1.0ヵ月																					
契約		10/01/20	-	★																				
前提条件 12月中に要件定義を完了																								
開発期間	10/01/20	11/02/20	13.0ヵ月																					
評価期間(受入試験)	11/02/21	11/03/20	1.0ヵ月																					
受入承認	11/03/21	11/03/31	0.5ヵ月																				★	
採血基準対応を優先	10/02/01	11/07/31	18.0ヵ月																					
採血基準対応			H21.4より準備																					
要件定義作業	09/04/10	09/12/25																						
契約作業(決裁等)	10/01/04	10/01/31	1.0ヵ月																					
契約		10/01/31	-	★																				
前提条件 12月中に要件定義を完了																								
開発期間	10/02/01	10/05/31	4.0ヵ月																					
評価期間(受入試験)	10/06/01	10/06/15	0.5ヵ月																					
受入承認	10/06/16	10/06/30	0.5ヵ月																					
問診票改訂対応																								
前提条件 採血基準対応の開発完了までに契約作業を完了																								
開発期間	10/06/16	11/06/15	12.0ヵ月																					
評価期間(受入試験)	11/06/16	11/07/15	1.0ヵ月																					
受入承認	11/07/16	11/07/31	0.5ヵ月																					★

▲ 英国滞在歴の献血制限緩和対応完了後に当該案件に着手

供血者から始まる遡及調査実施状況

平成21年9月30日現在

対象期間	平成21年4月1日 ~ 平成21年9月30日		
	HBV	HCV	HIV
(1) 遡及調査実施内容			
① 調査の対象とした献血件数(個別NAT実施件数)			
1) 総数	949		
2) 個別件数	885	35	29
② 上記①のうち、調査の対象とした輸血用血液製剤の本数			
1) 総数	1,050		
2) 個別本数	976	43	31
③ 上記②のうち、医療機関に情報提供を行った本数			
1) 総数	753		
2) 個別本数	698	32	23
(2) 個別NAT関連情報			
① 遡及調査実施対象[(1)①]のうち、個別NATの結果が陽性となった献血件数			
1) 総数	79		
2) 個別件数	79	0	0
② 上記①のうち、医療機関へ供給された製剤に関する報告件数			
1) 使用された本数	76	0	0
2) 医療機関調査中	4	0	0
3) 院内で廃棄	6	0	0
4) 不明	3	0	0
計	89	0	0
③ 上記②のうち、受血者情報が判明した件数			
1) 陽転事例	0	0	0
2) 非陽転事例	32	0	0
3) 死亡	33	0	0
4) 退院・未検査	8	0	0
5) 陽性だが輸血前不明	3	0	0
計	76	0	0
④ 上記③のうち、医薬品副作用感染症報告を行った件数			
報告件数	0	0	0

*血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン(平成20年12月26日一部改正)に基づく遡及調査対応基準を適用。

HBV : HBs抗原CLEIA法確認試験(中和試験)又は個別NAT陽性の場合は遡及調査を行う。

: HBc抗体CLEIA法陽転の場合は遡及調査を行う。

HCV : HCV抗体CLEIA法陽転の血液及び前回の血液について個別NATを実施し、いずれかが陽性の場合は遡及調査を行う。

HIV : HIV抗体CLEIA法で陽転し、確認試験(WB法)又は個別NAT陽性の場合は遡及調査を行う。

共通 : スクリーニングNAT陽転の場合は遡及調査を行う。

〈参考〉

供血者から始まる遡及調査実施状況

対象期間	平成11年4月1日～ 平成18年3月31日			平成18年4月1日～ 平成19年3月31日			平成19年4月1日～ 平成20年3月31日			平成20年4月1日～ 平成21年3月31日		
	HBV	HCV	HIV	HBV	HCV	HIV	HBV	HCV	HIV	HBV	HCV	HIV
① 調査の対象とした献血件数												
1) 遡及調査の対象件数	23,104			2,193			2,694			5,219		
② 上記①のうち、個別NAT検査を実施した本数(検体数)												
1) 本数(検体数)	23,104			2,193			2,694			5,219		
2) 実施率	100%			100%			100%			100.0%		
③ 上記②のうち陽性が判明した本数												
本数	311	3	1	60	1	0	25	0	0	118	0	0
④ 上記①のうち医療機関に情報提供を行った件数												
1) 血液製剤数(総数)	33,114			2,408			2,867			4,034		
個別本数	/	/	/	2,062	288	58	2,444	345	78	3,552	417	65
2) 情報提供数	33,114			2,408			2,708			3,469		
個別件数	/	/	/	2,062	288	58	2,319	317	72	3,150	254	65
* 平成11年4月1日～平成17年3月31日までの情報提供数には、医療機関の廃院等による追跡不能数930件を含む												
⑤ 上記③のうち医療機関へ供給された製剤に関する報告件数												
1) 使用された本数	326	3	1	51	2	0	26	0	0	94	0	0
2) 医療機関調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3) 院内で廃棄	16	0	0	2	0	0	2	0	0	5	0	0
4) 不明	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	349	4	1	53	2	0	28	0	0	99	0	0
⑥ 上記⑤のうち、受血者情報が判明した件数												
1) 陽転事例	17	1	1	4	1	0	4	0	0	3	0	0
2) 非陽転事例	69	0	0	11	0	0	9	0	0	30	0	0
3) 死亡	118	2	0	31	1	0	10	0	0	42	0	0
4) 退院・未検査	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5) 陽性だが輸血前不明	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	226	3	1	47	2	0	23	0	0	75	0	0
* 個別NAT陰性(NATウインドウピリオド)の遡及調査対象血液の輸血により、受血者が陽転した例を含む												
⑦ 上記⑥のうち、医薬品副作用感染症報告を行った件数												
報告件数	16*	1	1	5	1	0	4	0	0	3	0	0
ウイルス別合計				HBV:28			HCV:2			HIV:1		

* 受血者情報の陽転事例のうち医薬品感染症報告が行われていない平成12年3月の事例は、献血血液が遡及調査の対象(個別HBV-NAT陽性)となり、受血者の陽転化情報が得られたが、患者は原疾患により死亡した事例である。
* 平成20年度は、遡及調査対応基準を改定した。(同年10月29日開催「薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会」にて了承済)

血液製剤に関する報告事項について (目次)

- 輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われた事例について 3
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 3 月 22 日報告)について 4
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 11 月 26 日報告)について 5
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 1 月 12 日報告)について 7
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 2 月 4 日報告)について 9
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 6 月 23 日報告)について 11
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 4 月 7 日報告)について 12
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 6 月 5 日報告)について 13
 - 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 2 月 20 日報告)について 14
 - 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 2 月 15 日報告)について 15
- ※●は今回の新規症例
- 平成 21 年度感染症報告事例のまとめ
(平成 21 年 6 月 30 日報告分以降)について 17
 - 輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NAT の状況) 33

< 参 考 >

- ・ 血液製剤に関する報告事項について
（平成 21 年 11 月 13 日付け血液対策課事務連絡） 40
- ・ 血液製剤に関する報告事項について(回答)
（平成 21 年 11 月 20 日付け日本赤十字社提出資料） 42
- ・(参考)安全対策業務の流れ 44

輸血用血液製剤でH I V感染が疑われる事例について

1. 経緯等

平成 15 年 9 月 5 日、後天性免疫不全症候群発生届にて感染経路として輸血が考えられるH I V感染者が報告されたとの情報を入手。同日、当該報告医が、同事例について副作用感染症報告を日本赤十字社に提出、これを受けて同社による調査が開始され、その結果が、平成 15 年 10 月 30 日に開催された第 95 回エイズ動向委員会（委員長：吉倉廣国立感染症研究所長）に報告された。

2. 事 例

50 歳代の男性で平成 15 年の 3 月～7 月に赤血球製剤（MAP 16 単位）の輸血を受けた後、実施した血液検査においてH I V感染を確認（WB検査陽性）。報告医は感染経路として輸血を疑っている。

3. 事実関係

1) 輸血された輸血用血液製剤について

- ・当該感染者には、8 人の供血者から採血された赤血球製剤（MAP）が 8 本（保管検体の個別NATはいずれも陰性）投与された。

2) 他の血液製剤への影響について

- ・投与された赤血球製剤の原料血液からは、他に新鮮凍結血漿と血漿分画製剤用の原料血漿が製造されていた。
- ・原料血漿については流通を停止。
- ・新鮮凍結血漿については 3 本が製造されており、既に他の医療機関で 3 名の患者に投与されていた。（他に行方不明の製剤はない。）

3) 新鮮凍結血漿の投与を受けた 3 名について

- ・1 名は既に原疾患により死亡
- ・残り 2 名については輸血後（約 6 ヶ月後）の抗体検査で陰性。

4. エイズ動向委員会での専門家からの意見

記者会見では、「HIV の感染が輸血用血液製剤によるか追求すれば、患者のプライバシーに関わりうるケースである。」との発言があった。

5. エイズ動向委員会後の事実経過

- 1) 健康状態の確認を行っていた 2 名の受血者は、いずれも感染していなかったことが確認された。
- 2) 供血者の次回献血での検査については、8 名中 6 名が来訪し、感染していなかったことが確認された（平成 21 年 11 月 20 日現在、残る 2 名のその後来所なし）。

6. 今後の対応

当該感染者のプライバシーの最大限尊重を徹底しつつ、引き続き調査を継続するよう指導してまいりたい。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (3 月 22 日報告) について

1 経緯

平成 16 年 3 月 22 日及び 30 日、日本赤十字社から輸血 (人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液) による HBV 感染の疑い事例の報告があった。

2 事例

70 歳代の女性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成 15 年 10 月 5 日～平成 16 年 1 月 22 日の間に、輸血を計 18 回 (人血小板濃厚液 10 単位を 11 袋分並びに人赤血球濃厚液 1 単位を 3 袋分及び 2 単位を 4 袋分) 受ける。

輸血前の血液検査 (平成 15 年 10 月 3 日) では HBs 抗原及び抗体検査 (B 型肝炎ウイルスの検査) はいずれも陰性であったが、輸血後の平成 16 年 3 月 19 日に実施した HBs 抗原検査は陽性、肝機能検査 (GOT、GPT 及び LDH) は高値を示す。

患者は 4 月 26 日に死亡したことを確認済み。死因は呼吸不全及び腎不全。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

○ 当該患者には、37 人の供血者から採血された血小板製剤及び赤血球製剤を輸血。

○ 当該製剤に関わる血漿のうち、4 人分由来の 5 本が新鮮凍結血漿 (FFP) として医療機関へ供給された (残りは原料血漿)。

(2) 37 人の供血者について

37 人の供血者のうち、32 人の献血者がその後献血しており、検査は陰性であった。(平成 21 年 11 月 20 日現在、残る 5 人のその後の来所なし)。

(3) 供血者の個別 NAT の試験結果

供血者 37 人の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

(4) 患者の保管検体の個別 NAT 及び HBs 抗原の試験結果

平成 16 年 3 月 19 日 (輸血後) の医療機関に保管されていた患者検体は個別 NAT 及び HBs 抗原検査はいずれも陽性 (輸血前は保管されていなかった)。

(5) 輸血と HBV 感染との関連

現在のところ、輸血と HBV 感染 (当該事例の死亡原因を含む) の因果関係については不明。

4 今後の対応

(1) 当該事例への対応

○ 医療機関へ供給した 5 本の新鮮凍結血漿に関して情報提供した医療機関における受血者 (患者) 5 名の健康状態を確認した結果、輸血後陰性が 2 名、不明が 3 名であった。

○ 37 人の供血者のうち、その後献血に来ていない 5 人のフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （11月26日報告）について

1. 経緯

平成16年11月26日、日本赤十字社から輸血（新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2. 事例

70歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍（転移性肝癌を含む。）。平成16年3月12日から15日まで4日間に亘り、プロトロンビン時間延長のため、輸血を（新鮮凍結血漿合計36単位23本）受ける。

輸血前の血液検査（2月28日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年10月4日に肝機能検査値異常がみとめられ、黄疸を呈したため、10月8日に検査したところ、HBs抗原陽性、HBs抗体陰性が確認され、急性B型肝炎と診断された。11月17日に右大量胸水を呈した後、呼吸状態悪化により死亡した。また、平成15年5月の手術の際にも新鮮凍結血漿2単位22本、赤血球MAP2単位3本の輸血を受けている。

3. 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には平成16年3月の輸血時に23人の供血者から採血された新鮮凍結血漿を輸血。また、平成15年5月に25人の供血者から採血された新鮮凍結血漿及び赤血球MAPを輸血。
- ② 平成16年3月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は2本が確保、10本は使用済み、新鮮凍結血漿10本及び赤血球MAP23本は全て医療機関に提供済み。
- ③ 平成15年5月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿21本は使用済み、新鮮凍結血漿6本及び赤血球MAP22本は全て医療機関に提供済み。

(2) 48人の供血者について

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人のうち、20人が再献血し、再献血時の検査結果は19人がHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体はEIA法陽性、HI法陰性、HBs抗体（EIA法）陽性（NAT及びHBs抗原陰性）であった。なお、この1人の献血時のHBc抗体はEIA法で陽性、HBs抗体も陽性であった（平成21年11月20日現在、残る3人のその後の来所なし）。
- ② 平成15年5月の輸血時の供血者25人のうち、21人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査陰性であった（平成21年11月20日現在、残る4人のその後の来所なし）。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。
- ② 平成15年3月の輸血時の供血者25人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4. 今後の対応

- (1) 供血者48人のうち、7人の再献血・検査に係るフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

- ① 受血者の輸血後検体(10月12日)を確保し、再検査したところ、HBs抗原(+)、HBs抗体(-)、HBc抗体(+)、HBV-DNA(+)であった。
- ② 受血者の肝臓については、平成15年に手術され、平成16年10月の腹部CTでは再発が認められておらず、肝臓と肝障害との因果関係はないものと考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （1月12日報告）について

1 経緯

平成17年1月12日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は血液疾患。平成16年1月8日から5月25日まで12回にわたり、輸血（赤血球濃厚液合計26単位、血小板濃厚液合計30単位）を受ける。

輸血前の血液検査（1月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年11月18日に食欲不振のため、検査したところ、HBs抗原陽性が確認され、同22日の採血の検体で、HBs抗原（+）、HBs抗体（-）、HBc抗体（+）、HBV-DNAのNATの（+）も確認された。平成17年1月8日劇症肝炎を呈した後、肝不全により死亡した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には16人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。
- ② 輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は3本が確保、12本は使用済み、新鮮凍結血漿12本は全て医療機関に提供済み。

(2) 16人の供血者について

- ① 輸血時の供血者16人のうち、12人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査（-）であった。（平成21年11月20日現在、残る4人のその後の来所なし）
- ② 供血時保管検体の2人の陽性血から、原料血漿2本、新鮮凍結血漿が2本製造され、原料血漿は使用済み、新鮮凍結血漿も使用済みであった。当該新鮮凍結血漿の受血者2名のうち、1人は輸血後11日目で死亡、もう1人はHBs抗原検査（-）であった。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 輸血時の供血者16人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、2人がNAT（+）であった。
- ② 当該2人は、共に、複数回再献血を行っているが、再献血時にHBV関連検査（-）であり、HBc抗体及びHBc抗体-IgMは（-）、個別NATも共に（-）であった。
- ③ 当該2名の供血時の保管検体のウイルス解析の結果、共に、ゲノタイプCサブタイプadrと推定、また、497番目と498番目の間に12塩基が挿入した極めて特殊な変異株と挿入のない野生株が存在していた。これらは、受血者の血液も同様に挿入のある変異株と挿入のない野生株を有しており、三者のウイルスのシーケンスは完全に一致した。

4 今後の対応

(1) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(2) 輸血時の供血者16人のうち、再献血に訪れていない4人について引き続き、調査

する。

(3) その他

- ① 供血時保管検体でNAT（+）となった2名は、その後の再献血の検査がすべて（-）であり、HBc抗体も（-）であり、感染歴があった可能性は低い。
- ② また、発見されたウイルスのシークエンスは稀なものであり、これらが偶然に保管検体2本一致することは考えにくい。
- ③ 当該供血者の血液から同時に製造された新鮮凍結血漿の受血者で感染は発生していない。
- ④ 以上のことから、NAT時に受血者血液が供血者サンプルに混入する等の測定上の誤差が発生した可能性も考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2月4日報告）について

1 経緯

平成17年2月4日、日本赤十字社から輸血（人赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は悪性腫瘍。平成16年9月8日から11月24日まで、貧血のため、輸血を計9回（人赤血球濃厚液合計14単位）を受ける。

輸血前の血液検査（平成16年8月3日及び9月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが（9月8日はHBs抗体及びHBc抗体検査も陰性）、平成16年11月24日の輸血時にHBs抗原検査陽性が確認された（HBs抗体及びHBc抗体検査は陰性）。

平成17年1月26日の輸血施行時に、HBs抗原検査陽性に加え、HBc抗体検査が陽性となり（HBs抗体検査は陰性）、1月31日には黄疸が出現するとともに、肝機能検査で高値を示し、2月2日に劇症肝炎により死亡した。

なお、当該患者の輸血前血液（平成16年9月8日）の保管検体のHBV-NATは陰性で、輸血後血液（平成16年10月21日）はHBV-NATは陽性であった。輸血後血液から検出されたHBVは、ジェノタイプB、サブタイプadw、CP/Pre C領域はe抗原が産生できない変異株であった。HBV-DNA量は 2.9×10^{10} Copies/mLであった。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には9人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ② 9人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿7本及び新鮮凍結血漿2本を確保済み。残りの新鮮凍結血漿2本は医療機関へ供給済みであるが、医療機関への情報提供は実施済み。

（2）9人の供血者について

- ① 供血者9人のうち、当該患者の平成16年10月21日採血の輸血後血液がHBV-NAT陽性であったことから、10月21日輸血以前（9月8日～9月10日）の輸血に係る4人の供血者に対して供血者に呼び出しの協力を依頼し、3人は再献血又は再採血済み。
- ② 10月21日輸血以降の供血者について、2人がその後再採血検査済み。
- ③ ①及び②の計5名については、HBV個別NATを含めHBV関連検査は陰性だった。ただし、①の3名のうち、1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性、HI法は陰性だった。（平成21年11月20日現在、残る1名のその後の来所なし。）

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者9人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）9月8日～9月10日輸血の4人の供血者のうち、残る供血者1人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

悪性腫瘍の治療にプラチナ系抗癌剤等（8月18日）及びテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（11月10日）を使用しており、薬剤性の劇症肝炎の疑いも完全には否定できない。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (6 月 23 日報告) について

1 経緯

平成 17 年 6 月 23 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

50 歳代の男性。原疾患は消化管腫瘍。平成 17 年 2 月 3 日に手術施行のため、赤血球濃厚液合計 8 単位、新鮮凍結血漿合計 30 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 16 年 12 月）では HBs 抗原検査陰性、輸血後の平成 17 年 4 月 6 日でも HBs 抗原検査陰性であったが、退院時の平成 17 年 4 月 21 日に HBs 抗原検査陽性が確認された。

その後、平成 17 年 6 月 13 日に発熱、全身倦怠感等出現し、肝機能値が高値を示し、6 月 16 日再入院、6 月 20 日には、HBs 抗体、HBc 抗体、HBe 抗原、HBe 抗体のいずれも陽性が確認された。また、同日の HBc の IgM 抗体も陽性であり、劇症肝炎と診断される。

患者は、7 月 3 日に B 型劇症肝炎にて死亡した。

患者の検体の HBV の解析結果は、ジェノタイプ C、サブタイプ a d r であり、CP/Pre Core 領域の塩基配列の解析から PreC 部位には変異はなく、CP (Core Promoter) 部位に変異がある CP 変異、PreC 野生株であった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には 20 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 20 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 17 本のうち 10 本が確保、新鮮凍結血漿 6 本のうち 3 本は確保済み。15 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。医療機関への情報提供は実施済み。

(2) 20 人の供血者について

供血者 20 人のうち、16 人が再採血・献血に来場 (HBV 関連検査は陰性)。(平成 21 年 11 月 20 日現在、残る 4 名の来訪なし。)

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 20 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者 4 人の再献血・検査に係るフォローを行う (再採血の依頼中)。
- (2) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた 事例（4月7日報告）について

1. 経緯

平成18年4月7日、日本赤十字社から輸血（濃厚血小板、赤血球濃厚液）によるHBV感染疑いの症例の報告があったとの報告が、日本赤十字社からあった。

2. 事例

患者は、40代の男性で、原疾患は血液腫瘍。平成16年7月から平成17年2月に（濃厚血小板計30単位、赤血球濃厚液計48単位）、平成17年3月から5月に輸血（濃厚血小板計130単位、赤血球濃厚液計18単位）を受ける。

最初の輸血から8ヶ月後の平成17年2月22日にはHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体全て陰性だったが、平成18年3月に肝不全となり、4月3日にHBs抗原、HBc抗体についても陽転が確認された。輸血後の平成17年5月23日の保管検体において、HBV-NATは陰性であったが、6月8日の保管検体において、HBV-NATは陽性であった。なお、HCV抗体は輸血前から陽性であった。

その後主治医は、亜急性劇症肝炎と診断。（4月7日ALT67IU/mL, T-Bil3.57mg/dL, PT-INR2.30）患者は5月19日に肝不全により死亡。

3. 感染についての状況

(1) 輸血された血液製剤について

① 当該患者に投与された血液製剤の供血者数は31人（H16年7月～H17年2月）及び22人（H17年3月～5月）

※被疑製剤の対象をH16年7月まで拡大して調査

② 当該供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿51本のうち44本使用済みで7本確保済み。新鮮凍結血漿14本はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 供血者個別NAT

供血者個別NATは53人分全て陰性。

(3) 供血者に関する情報

① 供血者31人のうち、22人が献血又は事後採血に再来し、21人はHBV関連検査陰性。1名はHBs抗体のみ陽性（平成21年11月20日現在、残る9名の来訪なし）。

② 供血者22人のうち、22人すべてが献血又は事後採血に再来し、20人はHBV関連検査陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性。

(4) その他

平成17年4月8日、骨髄バンクからの同種骨髄移植を施行。ドナーはHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)であった。

4. 今後の対応

(1) 供血者9人の再献血・検査に係るフォローを行う

(2) 「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (6 月 5 日報告) について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血 (赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿) による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査 (平成 17 年 8 月 31 日) では HBs 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に HBs 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりであった。

輸血前 H17. 10. 22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17. 11. 13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17. 11. 24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性/PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17. 11. 27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18. 06. 02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

① 当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。

② 29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、28 人が再採血・献血に来場 (28 名の HBV-DNA は全て陰性、そのうち 2 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性)。(平成 21 年 11 月 20 日現在、残る 1 名の来訪なし。)

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

(1) 供血者 1 人の再献血・検査に係るフォローを行う (再採血の依頼中)。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (2 月 20 日報告) について

1 経緯

平成 19 年 2 月 20 日、日本赤十字社から輸血 (赤血球濃厚液) による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60 歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成 18 年 8 月 3 日に、輸血 (赤血球濃厚液合計 4 単位 3 本) を受ける。

輸血前の血液検査 (平成 18 年 7 月 11 日) では HBs 抗原検査陰性であったが、輸血後の平成 18 年 9 月 26 日に、HBs 抗原検査陽性となった。10 月 24 日の悪心、嘔吐、腹痛にて受診、AST 1364、ALT 1306、肝不全を認める。10 月 25 日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血による HBV の感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

①当該患者には 3 人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された 3 本の原料血漿は全て確保済み。

(2) 3 人の供血者について

3 人の供血者のうち、2 名が再採血・献血に来場 (2 名の HBV 関連検査は全て陰性)。

(平成 21 年 11 月 20 日現在、残る 1 名の来訪なし。)

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 3 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

(1) 供血者 1 人の再献血・検査にかかるフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告) について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血（濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本）を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前（8月12日）のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み（3本は使用済み）。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み（3本は医療機関供給済み）。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった（平成21年11月20日現在、残る3人のその後の来訪なし）。

(3) 患者検体の調査

- ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者3人のフォローアップを引き続き行う。

平成21年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成21年6月30日報告分から21年11月25日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤46件である。輸血用血液製剤の内訳は、
 - (1) B型肝炎報告事例： 18
 - (2) C型肝炎報告事例： 13
 - (3) HIV感染報告例： 0
 - (4) その他の感染症報告例： 15
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は14例（輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は6例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は11例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は3例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は0件。
 - (2) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は1例。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※症例一覧表において、事前発送資料からの修正・更新点は赤字で表記した。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染等転帰	転帰	献血者発症及の場合の献血者保管抗体(抗原、抗体、NAT)	献血者発症及の場合の献血者の検査値	
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
(該当なし)																										
陽転事例																										
3-0900047	A-09000467	2009/6/1	2009/7/1	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿	男	60	循環器疾患 糖尿病	B型肝炎	08/12 08/12	HBsAg(-) (08/11)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) IgM-HBcAb(+) (09/06)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)		保管抗体22本全部 HBV-DNA(-)		32単位 30単位	11/22 (HBV関連検査陰性)	13本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRIは全て確保済み。	-	重篤	軽快			
3-0900056	A-09000559	2009/7/2	2009/8/7	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR	男	50	血液腫瘍	B型肝炎	08/12 09/01	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBeAg(+) HBeAb(-) IgM-HBcAb(+) (09/07)	HBV-DNA(-) (08/12)	HBV-DNA(+) (09/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)		保管抗体23本(全部) HBV-DNA(-)		150単位 14単位	16/23(HBV関連検査陰性)	23本の原料血漿、1本の濃厚血小板を製造。原料血漿は2本確保済み。	原料血漿1本は使用済み。濃厚血小板は医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-0900059	A-09000591	2009/8/1	2009/8/2	人赤血球濃厚液-LR 人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液 人血小板濃厚液HLA(放射線照射) 人血小板濃厚液HLA	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	08/10 09/05 08/10 09/05 08/12 09/05	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/10)	HBsAg(+) (09/08)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/10)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/08) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/08)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)		*被疑製剤は48本。 保管抗体48本(全部) HBV-DNA(-)		28単位 75単位 90単位 40単位 160単位	31/46(30人はHBV関連検査陰性、1人はHBs抗体のみ陽性であり当該献血時においても同様であった。)	44本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は19本確保済み。新鮮凍結血漿-LRIは2本確保済み。	原料血漿は25本使用済み。新鮮凍結血漿-LRIは2本医療機関へ供給済みうち1本は未使用であり回収。	非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染等転帰	転帰	供血者発達の 場合の 者保管 検体(抗 体、 NAT)	供血者発達の 場合の 検査値
3-0900061	A-090000613	2009/8/13	2009/8/26	人赤血球濃厚液-LR	女	60	血液疾患	B型肝炎	09/01-09/07	HBsAg(-) (06/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) (09/08) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(+) (09/08)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/08)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体8本全部 HBV-DNA(-)		16単位	1/8(HBV関連検査陰性)	5本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。		重篤	軽快			
3-0900062	A-090000625	2009/8/25	2009/9/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	09/02	HBsAg(-) (09/02)	HBsAg(+) HBeAg(+) HBeAb(-) (09/08) HBsAg(+) (09/08)		HBV-DNA(+) (09/08) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/08)	陽性(輸血後)	保管検体4本全部 HBV-DNA(-)		8単位	0/4	4本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	新鮮凍結血漿-LRは全て医療機関へ供給済みで、3本は未使用であり回収。	非重篤	軽快			
3-0900080	A-0900008127	2009/10/27	2009/11/10	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	血液腫瘍	B型肝炎	09/05 09/08	HBsAg(-) (09/03)	HBsAg(+) HBeAb(+) (09/10)		HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/10)	陽性(輸血後)	保管検体2本全部 HBV-DNA(-)		10単位 2単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。		非重篤	未回復			
3-0900082	A-0900008329	2009/10/29	2009/11/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	消化器疾患	B型肝炎	09/07	HBsAg(-) (08/08)	HBsAg(+) HBeAb(+) (09/10)		HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(+)	陽性(輸血前)	保管検体2本全部 HBV-DNA(-)		4単位	0/2	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。		非重篤	未回復			
3-0900084	A-090000842	2009/11/2	2009/11/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	血液疾患	B型肝炎	09/04-09/09	HBV-DNA(-) (08/11)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) (09/09) HBV-DNA(+) (09/10) HBsAg(-) HBeAb(+) HBcAb(+) (09/10)		HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/07) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBeAb(+) HBcAb(+) (09/10)	陽性(輸血前)	保管検体8本全部 HBV-DNA(-)		16単位	1/8(HBV関連検査陰性)	3本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。		非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発過の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)	供血者発過の場合の供血者の検査値
3-0900069	A-0900069	2009/9/17	2009/9/28	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結血漿-LR	男	70	循環器疾患	B型肝炎	09/06	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) (09/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) (09/09)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/06)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体6本全部 HBV-DNA(-)			8単位 4単位	0/6	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LR、2本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	不明		
3-0900075	A-0900075	2009/10/19	2009/10/30	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	20	血液腫瘍	B型肝炎	09/02 09/03 09/04 09/05 09/07 09/09	HBsAg(-) HBcAb(-) (09/02)	HBcAb(-) HBcAb(-) (09/03) HBcAb(-) HBcAb(-) (09/04) HBcAb(-) HBcAb(+) (09/05) HBcAb(+) HBcAb(+) (09/07) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/09) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) (09/09) HBcAb(+) (09/09)	HBV-DNA(-) (09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/03) HBV-DNA(-) (09/09) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体18本全部 HBV-DNA(-)		100単位 16単位	11/18(HBV関連検査陰性)	16本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は、15本格保済み。新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。	原料血漿は1本使用済み。	非重篤	不明			
3-0900079	A-0900080	2009/10/26	2009/11/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	09/01	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (09/01)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) (09/04)	HBV-DNA(-) (09/01)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/04)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部 HBV-DNA(-)		4単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿はすべて使用済み	非重篤	不明			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の供血者の検査値	供血者発過及の場合の検査値
3-0900088		2009/11/12		人赤血球濃厚液-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	血液腫瘍	B型肝炎	09/08-09/10	HBsAg(-) HBcAb(+) (09/08)	HBsAg(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (09/11)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAb(-) (09/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAb(-) (09/10)	男性(献血前) 女性(献血後)	保体検体9本についてHBV-DNA(-)			8単位 10単位	0/9	6本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は、新鮮凍結血漿-LRはすべてを確保済み。		非重症	未回復		
陽転未確認事例																									
3-0900057	A-0900056	2009/8/4	2009/8/17	人血小板濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	30	血液腫瘍	B型肝炎	03/09-04/02	HBsAg(-) HBsAg(-) (04/08) HBsAg(+) (07/02) HBsAg(+) (07/07) HBsAg(+) (09/07)					保管検体42本全部HBV-DNA(-)		140単位 37単位 10単位	36/42(HBV関連検査陰性)	原料血漿は29本使用済み、4本減損済み。新鮮凍結血漿-LRは8本医療機関へ供給済み、1本減損済み。赤血球MAPは18本医療機関へ供給済み、4本減損済み。	原料血漿は29本使用済み、4本減損済み。新鮮凍結血漿-LRは8本医療機関へ供給済み、1本減損済み。赤血球MAPは18本医療機関へ供給済み、4本減損済み。	非重症	未回復			
3-0900064	A-0900064	2009/9/7	2009/9/18	人赤血球濃厚液-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	20	血液腫瘍	B型肝炎	09/04-09/07	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAg(-) HBcAb(-) HBcAb(-) (09/04)	HBsAg(-) HBcAb(+) (09/08) HBV-DNA(-) HBsAg(+) HBcAb(+) HBcAg(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(-) (09/08)				保体検体23本全部HBV-DNA(-)		16単位 2単位 140単位	7/23(5人はHBV関連検査陰性、1人はHBs抗体のみ陽性であり、もう1人はHBs抗体およびHBc抗体陽性で、いずれも)	23本の原料血漿を製造。原料血漿は22本使用済み、1本は減損済み。		非重症	回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保体(抗体、NAT)	供血者発症及の場合の検査値
3-0900074	A-0900074	2009/10/8	2009/10/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器疾患	B型肝炎	09/01	-	HBsAg(+) (09/09) HBV-DNA(+) HBcAb(+) (09/09)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/10)	陽性(輸血後)	保管検体5本についてHBV-DNA(-)	-		5単位	1/5(HBs抗体およびHBc抗体陽性で、当該献血時においてもそうであった。)	5本の原料血漿を製造。	原料血漿はすべて使用済み。	非重篤	未回復		
3-0900092		2009/11/20		新鮮凍結人血漿-LR 人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	循環器疾患	B型肝炎	09/02	-	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/02) HBsAg(-) (09/08) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (09/11)	調査中	調査中	HBV関連検査実施予定	保管検体45本についてHBV-NAT実施予定		38単位 50単位 13単位 26単位	22/45(21人はHBV関連検査陰性。1人はHBs抗体のみ陽性であり、当該献血時はHBs抗体およびHBc抗体陽性であった。)	20本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、22本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は、2本確保済みで、18本使用済み。	新鮮凍結血漿-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	死亡			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗体、抗原、NAT)	供血者発症及の場合の検査値
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																									
供血者陽性事例																									
(該当例なし)																									
陽転事例																									
3-0900039	A-09000037	2009/5/2	2009/6/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	60	消化器疾患 血液疾患	C型肝炎	08/06 08/06	HCV-Ab(-) (08/05)	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (09/05)	-	HCV-RNA(-) (08/06) HCV-RNA(+) (09/05)	陽性(輸血後)	保管検体7本全部 HCV-RNA(-)	人血清アルブミン		12単位 2単位	5/7(HCV関連検査陰性)	5本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。 新鮮凍結血漿-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-0900041	A-09000039	2009/6/8	2009/6/2	人赤血球濃厚液-LR	男	80	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	09/01	HCV-Ab(-) (09/01) HCVコアAg(-) (09/01)	HCV-RNA(+) (09/05)	HCV-RNA(-) (09/01)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本について HCV-RNA(-)		2単位	0/1	1本の原料血漿を製造、原料血漿は確保済み。	-	重篤	未回復			
3-0900042	A-09000040	2009/6/8	2009/6/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	生殖器腫瘍	C型肝炎	09/02	HCVコアAg(-) (09/02)	HCV-Ab(-) (09/02) HCVコアAg(+) (09/05) HCVコアAg(+) (09/06)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(-) (09/06)	陽性(輸血後)	保管検体2本全部 HCV-RNA(-)		4単位	0/2	2本の原料血漿を製造、原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	未回復			
3-0900051	A-09000049	2009/6/2	2009/7/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	脳疾患	C型肝炎	08/01	HCV-Ab(-) (07/12)	HCV-Ab(-) (08/02) HCV-Ab(+) (09/02)	HCV-RNA(-) (08/01)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本全部 HCV-RNA(-)		4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	軽快			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保体(抗体、NAT)	供血者発過及の場合の検査値
3-0900094	A-090000534	2009/7/14	2009/7/27	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	頭蓋部腫瘍 糖尿病 腎・泌尿器疾患	C型肝炎	07/06	HCV-Ab(-) (07/05)	HCV-Ab(+) (09/02) HCV-RNA(+) genotype 2B (09/04) HCV-Ab(+) (09/05)	-	-	-	保管検体2本 全部 HCV-RNA(-)		4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は使用済み。	重篤	未回復			
3-0900076	A-09000076	2009/10/20	2009/10/30	新鮮凍結人血漿-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	脳腫瘍	C型肝炎	09/09 09/09	HCV-Ab(-) (09/09)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	HCV-RNA(-) (09/09)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体12本 全部 HCV-RNA(-)	人血清アルブミン ポリヒール	8単位 16単位	2/12(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿、6本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は、全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-0900077	A-09000077	2009/10/20	2009/10/30	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	09/08	HCV-Ab(-) (09/08)	HCV-Ab(+) (09/10) HCVコアAg(+) (09/10) HCV-RNA(+) HCV genotype 1b (09/10)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	陽性(輸血後)	保管検体3本 全部 HCV-RNA(-)		6単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は、すべて確保済み。	-	重篤	軽快			
3-0900086	A-09000086	2009/11/16	2009/11/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	その他の疾患	C型肝炎	09/03	HCV-Ab(-) (09/01) HCVコアAg(-) (09/07) HCV-Ab(-) (09/07) HCV-Ab(-) (09/10) HCVコアAg(+) (09/10) HCV-Ab(+) (09/10) HCV-RNA(+) genotype 1b (09/10)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/03)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本 全部について HCV-RNA(-)		4単位	0/3	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は、1本確保済み。	新鮮凍結血漿-LRは全て医療機関へ供給済みで未使用であり回収済み。原料血漿は、1本使用済み。	重篤	軽快				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染等転帰	転帰	供血者発達の 場合の供血者 検体(抗体、 NAT)	供血者発達の 場合の供血者 の検査値
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									
3-0900081	A-0900082	2009/10/28	2009/11/6	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	女	70	消化器腫瘍	C型肝炎	09/09-09/10 09/09	HCV-Ab(-) (09/08) HCV-Ab(-) (09/09) HCVコアAg(-) (09/09)	HCVコアAg(-) HCV-Ab(+) (09/10)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/09)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体3本についてHCV-RNA(-)		4単位 2単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。		非重篤	不明			
3-0900085	A-0900085	2009/11/5	2009/11/12	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	血液疾患	C型肝炎	09/02 09/08	HCV-Ab(-) (08/12) HCV-Ab(+) (09/10) HCV-Ab(+) (09/10) HCV-RNA(+) (09/10)	HCV-RNA(+) (09/02)	HCV-RNA(+) (09/04)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体5本全部HCV-RNA(-)		50単位	3/5(HCV関連検査陰性)	5本の原料血漿を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は4本使用済み。	非重篤	未回復				
3-0900087		2009/11/11		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	循環器疾患	C型肝炎	09/06	HCVコアAg(-) (09/04) HCV-Ab(-) (09/04)	HCVコアAg(+) HCV-Ab(-) (09/10)	HCV-RNA(-) (09/04)	HCV-RNA(-) (09/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体3本についてHCV-RNA(-)		6単位	0/3	1本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は、全て確保済み。		非重篤	軽快			
陽転未確認事例																									
3-0900090		2009/11/19		人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	血液腫瘍	C型肝炎	09/03-09/07	HCV-Ab(-) (08/12) HCVコアAg(-) (09/03)	HCVコアAg(+) (09/11)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体22本についてHCV-NAT実施予定		120単位 20単位	12/22(HCV関連検査陰性)	20本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は、使用の有無を調査中。新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。	調査中	重篤	調査中			
3-0900091		2009/11/20		新鮮凍結人血漿-LR 人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR	男	60	循環器疾患	C型肝炎	09/04	HCV-Ab(-) (09/02)	HCVコアAg(+) HCV-RNA(+) genotype1b (09/10)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体17本についてHCV-NAT実施予定		16単位 20単位 16単位	9/17(HCV関連検査陰性)	9本の原料血漿、8本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は、すべて確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の者保管検体(抗体、NAT)	供血者発過及の場合の検査値	
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む。)																										
(該当なし)																										
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																										
3-0900036	A-0900034	2009/5/20	2009/6/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	90	脳疾患	細菌感染	09/04	-	輸血終了翌日敗血症性ショック発現発熱、血圧変動16日後、患者敗血症、多臓器不全、DICにて死亡院内にて実施の患者血液培養よりSerratia marcescens 2.0pg/mL(基準値1.0pg/mL)	当該製剤のセグメントチューブ(3本)にてSerratia marcescensに対する細菌培養試験を実施、陰性。当該製剤3本の内1本でエンドキシン濃度	-	-	-	被疑薬:採血8、9日目の照射赤血球濃厚液-LR(3本) 医療機関にてCVカテーテルよりSerratia marcescens同定(09/05)調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血用血液との因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	6単位	-	1本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRIは全て確保済み。	-	重篤	死亡 患者は09年5月7日、敗血症、多臓器不全、DICにて死亡。剖検なし。死亡と本剤関係なし(担当医の意見)。				
3-0900046	A-0900045	2009/6/15	2009/6/26	人血小板濃厚液HLA(放射線照射)	女	60	血液疾患	細菌感染	09/06	-	36.7℃→37.6℃→38℃ 翌日一旦体温が低下(35.8℃)したが夕方38℃ 患者の血液培養によりグラム陽性球菌を検出し、その後MRSAと同定。	同一採血番号の血漿(1本)による無菌試験を実施、適合。 非溶血性副作用関連検査実施、抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし。	-	-	-		20単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	未回復				

日赤番号	識別番号	FAX 受付日	報告 受領日	一般名	患者 性別	年 代	原疾 患	感 染 症 名	投与 年月	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用 血液 製剤 等	備考	使用 単位 数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者 製剤使用※	感染等 転帰	転帰	供血者 発過及 の場合 の供血 者検査 (抗原、 抗体、 NAT)	供血者発過 及の場合の 検査値
3-0900058	A-09000057	2009/8/6	2009/8/17	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	30	血液腫瘍	細菌感染	09/08		BT37.2℃→39℃ PR 85/min→ 107/min 院内にて患者血液 培養は陰性	投与中止の当該 製剤1本で細菌培 養試験を実施、 陰性。 非溶血性副作用 関連検査実施。 抗血漿タンパク質 抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠 損検査:欠損なし						10単位		1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。		非重篤	回復		
3-0900053	A-09000051	2009/7/7	2009/7/16	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫瘍	細菌感染	09/07		輸血終了30分後に 39.6℃の発熱、咽頭 痛あり。 患者血液培養から レンサ球菌(+)検 出、その後 Streptococcus oralisと同定。	同一採血番号の 血漿(1本)による 無菌試験を実 施、適合。 非溶血性副作用 関連検査実施。 抗血漿タンパク質 抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠 損検査: 欠損なし 抗HLA抗体検査: クラスI抗体陽性 クラスII抗体陽性				被疑薬:採血 2日目の照射 濃厚血小板(1 本)	10単位		1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。		重篤	軽快			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発選及の供血管検体(抗体、NAT)	献血者発選及の場合の検査値	
3-0900055	A-09000054	2009/7/27	2009/8/7	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	60	血液腫瘍	細菌感染	09/07		輸血開始10分後に悪寒・戦慄・嘔気・呼吸苦 sBP70台 SpO2 74% ショック時のエンドトキシン787.2 pg/mL β-Dグルカン16.1 pg/mL 患者血液培養より Serratia marcescens を同定	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施。Serratia marcescensを同定。投与中止の当該製剤にてエンドトキシン定量試験を実施433500.0pg/mL(セグメントチューブは1.0pg/mL以下)保管検体にて Serratia marcescensに対する細菌培養試験を実施。陰性。同一採血番号の血液(1本)による細菌培養試験を実施。適合非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし。						患者血液培養により検出された菌株を医療機関より入手し、細菌同定試験を実施したところ Serratia marcescensが同定された。患者および当該製剤より同定された二つの菌株についてパルスフィールド電気泳動を行い、その遺伝子解析パターンより二者が同一の菌株であることを確認した。 被疑薬:採血4日目の照射濃厚血小板(1本)	10単位		1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		重篤	回復		
3-0900055	A-09000065	2009/9/8	2009/9/18	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	1	血液疾患	サイトメガロウイルス感染	09/07-09/08		IgM-CMV-Ab(+) IgG-CMV-Ab(+) (09/08)		調査なし		保管検体2本全部 IgM-CMV-Ab(-) IgG-CMV-Ab(+)	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	投与は10単位製剤中ずつ、35mL使用	20単位		2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み		軽微	未回復			
3-0900066	A-09000066	2009/9/9	2009/9/18	人血小板濃厚液 人赤血球濃厚液-LR	男	40	血液腫瘍	細菌感染	09/09 09/09		血小板製剤輸血1時間後、悪寒。輸血約2時間後 BT38.9℃ 翌日、赤血球製剤輸血約1時間後 BT39.0℃ 院内にて実施の患者血液より Pseudomonas aeruginosaと Staphylococcus epidermidisを同定。	投与中止の当該製剤2本で細菌培養試験を実施。陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし					被疑薬:採血4日目の濃厚血小板(1本) 採血11日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	10単位 2単位		1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		非重篤	回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発潮及の供血管検体(抗原、抗体、NAT)	献血者発潮及の場合の検査値
3-0900067	A-0900067	2009/9/1	2009/9/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	糖尿病その他の疾患	細菌感染	09/09	-	赤血球製剤2単位投与開始時 BT37.1℃、P76、BP94/59 約2時間半後悪心、嘔吐 約3.5時間後 BT38.7℃ さらに赤血球製剤2単位投与 約4時間後 BT38.2℃ 翌日、下痢・倦怠感 意識レベル低下、BP57/32と低下。昇圧剤開始後、意識レベル改善BP91/39 再度意識レベル低下、呼吸停止、心停止。 DICにて患者死亡 院内にて実施の患者血液よりグラム陰性桿菌 Acinetobacter baumannii/haemolyticusを同定。	当該製剤のセグメントチューブ(2本)にて細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 血漿タンパク質欠損検査：欠損なし	-	-	-	被疑薬：採血10日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本)	4単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み	-	重篤	死亡 患者は09年9月9日、DICにて死亡。剖検なし。死亡と本剤の関連性はない(担当医の見解)。			
3-0900068	A-0900068	2009/9/1	2009/9/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	消化器疾患	細菌感染	09/09	-	輸血後、悪寒と発熱あり。院内にて実施の患者血液より Staphylococcus aureusを同定した。	当該製剤のセグメントチューブ(2本)にて細菌培養試験を実施、陰性。	-	-	-	被疑薬：採血10日、11日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本) 調査結果を受けて担当医師より「細菌感染と輸血血液との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	4単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	軽快			
3-0900070	A-0900070	2009/9/2	2009/10/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	腎・泌尿器疾患	伝染性紅斑赤芽球病	09/03	-	IgM-B19 -Ab(+) (09/05)	B19-DNA(-) IgM-B19Ab(-) IgG-B19 Ab(+) (09/09)	陰性(輸血後)	保管検体1本: B19-DNA(+) IgM-B19Ab(-) IgG-B19 Ab(+) 保管検体1本: B19-DNA(-)	4単位	-	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	原料血漿使用の有無を調査中。	重篤	未回復	患者検体とB19DNA陽性保管検体の塩基配列の相同性については、輸血後患者がB19DNA陰性のため調査できず。				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発達の 場合の 供血者 保管 検体(抗 体、 NAT)	供血者発達の 場合の 供血者の 検査 値
3-0900071	A-09000071	2009/9/24	2009/10/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器腫瘍	細菌感染	09/09	BT36.8℃ BP108/56 P72	輸血30分後 BT37.5℃ BP106/28 P184、悪寒あり・全身倦怠感出現、輸血中止 2.5時間後 BT40℃ BP152/26 P80 院内にて実施の患者血液培養より Enterobacter cloacaeを同定	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査：陰性					被疑薬：採血11日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位		1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		非重篤	回復		
3-0900072	A-09000072	2009/10/6	2009/10/20	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	血液疾患	細菌感染	09/10		輸血約80分後に悪寒・戦慄、喘鳴、末梢冷感あり。SpO2 60~70%台、BP70台 投与中止。 約2時間後BT36.8℃→39.7℃ 院内にて実施の患者血液培養より Streptococcus agalactiaeを検出。 院内にて実施の当該製剤血液培養より Streptococcus agalactiaeを検出。	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施、Streptococcus agalactiae(B群レンサ球菌)同定。					被疑薬：採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	10単位		1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		重篤	未回復	医療機関において検出された両者の菌株を入手し、3つの菌株(医療機関において当該製剤から検出された菌株、患者から検出された菌株および日本赤十字社で当該製剤から検出した菌株)について遺伝子解析等を行い、相同性について確認予定。	
3-0900073	A-09000073	2009/10/7	2009/10/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	その他の疾患?	細菌感染	09/10		輸血1時間半後 BT38.0℃ 2時間半後 BT39.0℃ 院内にて患者血液培養実施。 陰性	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 血漿タンパク質欠損検査：陰性					被疑薬：採血13日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より副作用・感染症と輸血用血液との「因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	2単位		1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		非重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
3-0900078	A-09000079	2009/10/21	2009/11/4	人赤血球濃厚液-LR	女	70	腎・泌尿器系疾患	細菌感染	09/10	-	輸血後25分で副作用発現。悪寒、ふるえ、倦怠感、喘鳴(SpO2 90%)さらに約2時間後(BT36.4℃→39.3℃)血圧低下(113/45→94/60)院内にて実施の患者血液培養よりEscherichia coliを検出した。	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 血漿タンパク質欠損検査：欠損なし	-	-	-	-	被疑薬：採血12日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造、確保済み。	-	重篤	軽快	-	-	-
3-0900089		2009/11/17		人血小板濃厚液	男	40	血液腫瘍	細菌感染	09/11	36.2℃ 脈78/min	39.4℃ 脈153/min 院内にて実施の患者血液培養よりグラム陰性桿菌を検出。	投与中止の当該製剤1本で細菌培養試験を実施予定。 非溶血性副作用関連検査実施予定。	-	-	-	採血2日目の濃厚血小板	10単位	-	調査中	調査中	非重篤	調査中	-	-		

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2* ¹	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H21. 9* ²	961, 033	115	1/8, 357
合計	1, 302, 207	160	1/8, 139

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳
別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		週及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		適及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+	/	ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+	/	喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	+	/	不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	+	/	ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	+	/	ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	+	/	レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	+	/	不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	+	/	不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	+	/	不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+	/	レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+	/	ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	-	-	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+	/	不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+	/	不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	+	/	不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+	/	ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	+	/	不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	+	/	不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+	/	ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	+	/	ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					-IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+	/	不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+	/	不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+	/	不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+	/	不明		無	
126	2008/09/03	30	M	28	-	-	+	/	不明		無	
127	2008/09/08	35	M	16	-	-	+	/	不明		無	
128	2008/09/09	23	F	24	-	-	+	/	ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+	/	不明		無	
130	2008/09/16	58	M	21	-	-	+	/	不明		無	
131	2008/09/17	62	M	37	-	-	+	/	ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無	
132	2008/09/23	42	M	36	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
133	2008/09/25	35	M	16	-	-	+	/	不明		無	
134	2008/09/27	30	M	22	-	-	+	/	不明		無	
135	2008/10/10	50	M	31	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無	
136	2008/10/11	39	F	15	-	-	+	/	ウマ精肉	生	無	
137	2008/10/14	56	M	13	-	-	+	/	不明レバー	生	無	
138	2008/10/18	38	F	23	-	-	+	/	不明		無	
139	2008/11/03	37	M	22	-	-	+	/	ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無	
140	2008/11/11	41	F	11	-	-	+	/	不明		無	
141	2008/12/05	52	M	18	-	-	+	/	ブタレバー	十分加熱	無	
142	2008/12/20	47	M	22	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
143	2009/01/13	50	M	27	-	-	+	/	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)	十分加熱	無	
144	2009/01/27	55	M	17	-	-	+	/	不明		無	
145	2009/02/11	37	M	28	-	-	+	/	不明ホルモン	十分加熱	無	
146	2009/02/16	59	F	23	-	-	+	/	ブタレバー	不明	無	
147	2009/02/23	20	F	42	-	+	+	/	ウシ、ブタ精肉	半生	無	
148	2009/03/11	29	M	49	-	-	+	/	ブタレバー、ホルモン	十分加熱	無	
149	2009/04/16	35	F	29	-	-	+	/	ウシレバー ウシ・ブタホルモン	生 半生	無	
150	2009/04/24	36	F	42	-	-	+	/	不明ホルモン	不明	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
151	2009/04/27	45	M	50	-	-	+		不明	不明	無	
152	2009/06/04	65	F	24	-	-	+		不明ホルモン	不明	無	
153	2009/06/09	63	M	26	-	-	+		ブタ肉 シカ精肉	十分加熱 生	無	
154	2009/07/01	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
155	2009/07/23	26	F	11	-	-	+		ブタホルモン ウシ精肉	十分加熱 生	無	
156	2009/08/01	40	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
157	2009/08/14	41	M	14	-	-	+		不明		無	
158	2009/09/04	43	M	45	-	-	+		ウマ精肉	生	無	
159	2009/09/09	54	F	14	-	-	+		ウシレバー	半生	無	
160	2009/09/09	51	M	19	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事務連絡
平成21年11月13日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成21年7月3日付け血安第271号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成21年12月10日（木）に平成21年度第3回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成21年11月20日（金）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いします。記の11については、平成21年7月28日開催平成21年度第2回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る7人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血 安 第 4 5 2 号
平成21年11月20日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

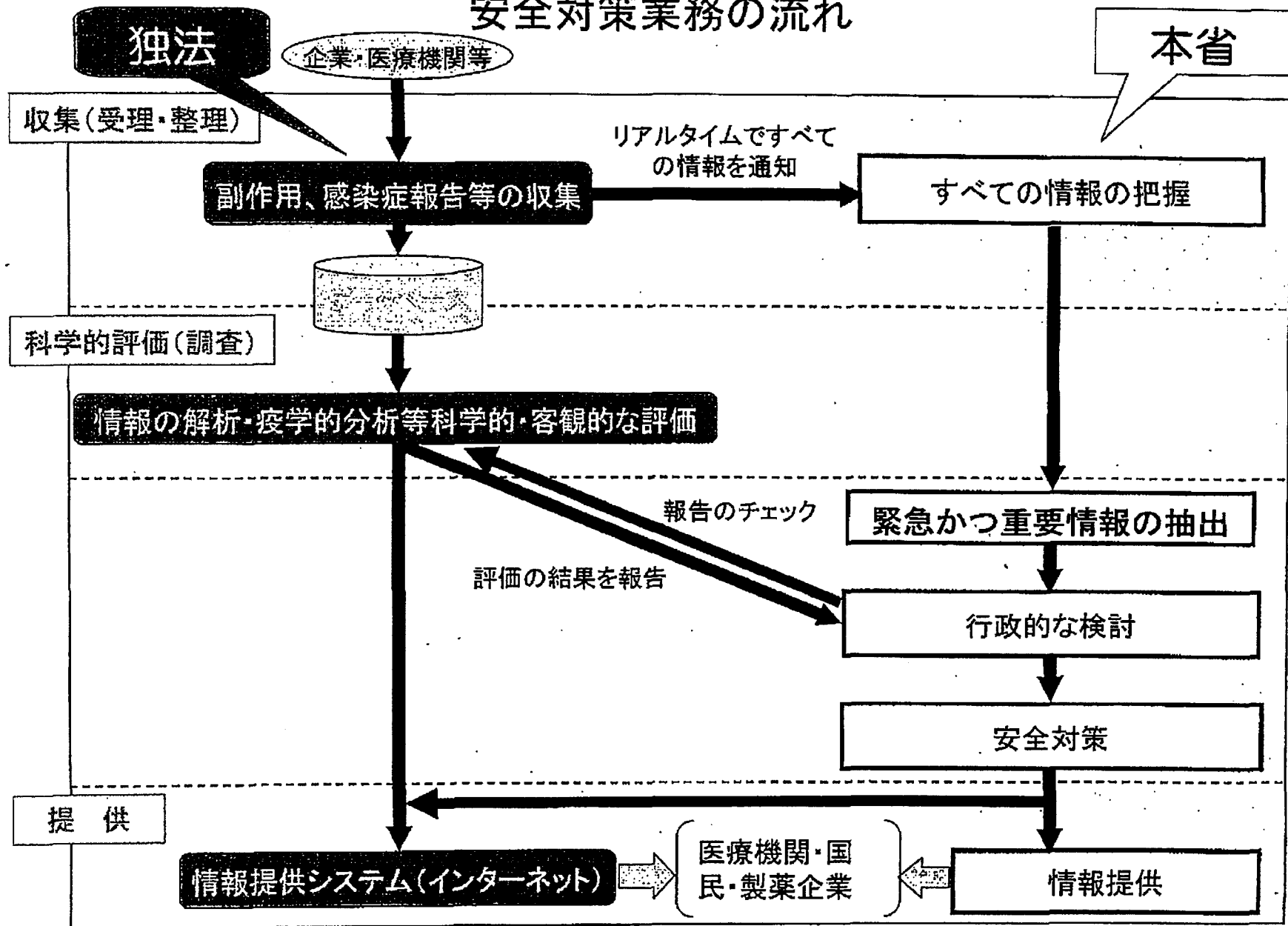
平成21年11月13日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記のとおり資料を作成しましたので報告いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でH I Vの感染が疑われる事例について、残る2人のその後の来訪なし。(8名中6名が来所、検査は全て陰性)
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V (B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る5人のその後の来訪なし。(37名中32名が来所、検査は全て陰性)
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V (B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る7人のその後の来訪なし。(48名中41名が来所、検査は全て陰性)
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V (B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る4人のその後の来訪なし。(16名中12名が来所、検査は全て陰性)
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V (B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る1人のその後の来訪なし。(追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性)

6. 平成 17 年 6 月 23 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 4 人のその後の来訪なし。（20 名中 16 名が来所、検査は全て陰性）
7. 平成 18 年 4 月 7 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 9 人のその後の来訪なし。（53 名中 44 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
8. 平成 18 年 6 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。（29 名中 28 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
9. 平成 19 年 2 月 20 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。（3 名中 2 名が来所、検査は全て陰性）
10. 平成 18 年 2 月 15 日報告、3 月 8 日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 3 人のその後の来訪なし。（81 名中 78 名が来所、検査は全て陰性）
11. 試行的HEV 20 プールNATについて、その後の調査実施状況については別紙のとおり。

安全対策業務の流れ



平成21年12月10日血液事業部会運営委員会配布資料

献血件数及びH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数

年	献 血 件 数 (検 査 実 施 数)	陽性件数 () 内女性 [] 内核酸 増幅検査 のみ陽性	10万件 当たり
	件	件	件
1987年 (昭和62年)	8,217,340	11(1)	0.134
1988年 (昭和63年)	7,974,147	9(1)	0.113
1989年 (平成元年)	7,876,682	13(1)	0.165
1990年 (平成2年)	7,743,475	26(6)	0.336
1991年 (平成3年)	8,071,937	29(4)	0.359
1992年 (平成4年)	7,710,693	34(7)	0.441
1993年 (平成5年)	7,205,514	35(5)	0.486
1994年 (平成6年)	6,610,484	36(5)	0.545
1995年 (平成7年)	6,298,706	46(9)	0.730
1996年 (平成8年)	6,039,394	46(5)	0.762
1997年 (平成9年)	5,998,760	54(5)	0.900
1998年 (平成10年)	6,137,378	56(4)	0.912
1999年 (平成11年)	6,139,205	64(6)	1.042
2000年 (平成12年)	5,877,971	67(4) [3]	1.140
2001年 (平成13年)	5,774,269	79(1) [1]	1.368
2002年 (平成14年)	5,784,101	82(5) [2]	1.418
2003年 (平成15年)	5,621,096	87(8) [2]	1.548
2004年 (平成16年)	5,473,140	92(4) [2]	1.681
2005年 (平成17年)	5,320,602	78(3) [2]	1.466
2006年 (平成18年)	4,987,857	87(5) [1]	1.744
2007年 (平成19年)	4,939,550	102(3) [6]	2.065
2008年 (平成20年)	5,077,238	107(3) [0]	2.107
2009年 (平成21年) (1~9月)	3,955,079 (速報値)	79(6) [2]	1.997

(注1)・昭和61年は、年中途から実施したことなどから、3,146,940件、うち、陽性件数11件(女性0)となっている。

(注2)・抗体検査及び核酸増幅検査陽性の血液は廃棄され、製剤には使用されない。
・核酸増幅検査については、平成11年10月より全国的に実施している。

(注3)・平成21年は、1月~6月の確定値と7月~9月の速報値で集計している。

HIV抗体・核酸増幅検査陽性献血者数内訳

1. 性別・年齢区分・国別

	男 性			女 性			合 計		
	日本人	外国人	計	日本人	外国人	計	日本人	外国人	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人
16～19歳	28	1	29	11	0	11	39	1	40
20～29歳	480	25	505	44	4	48	524	29	553
30～39歳	445	11	456	23	2	25	468	13	481
40～49歳	167	1	168	11	1	12	178	2	180
50～69歳	71	0	71	5	0	5	76	0	76
合 計	1191	38	1229	94	7	101	1285	45	1330

※ 昭和61年～平成21年9月(昭和61年については年途中から集計し、平成21年7月～9月については速報値で集計)

2. 都道府県別(献血地別)

県別	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	合計	構成割合 (%)	ブロック別			
	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)			顕性献血 件数 (件)	構成 割合 (%)		
1.北海道			1			1	2	1	1	1		1	1	3	2	2	3	2	2	3	2	3	3	1	35	2.6	北海道 ・東北			
2.青森			2																						10	0.8				
3.岩手																									4	0.3				
4.宮城							1	1																	12	0.9				
5.秋田																									3	0.2				
6.山形																									3	0.2				
7.福島																									7	0.5				
8.茨城					1	1	4	2			1	2		1	2	1	1				1	1	1	5	24	1.8	関東			
9.栃木					3	1					2	1	1			3					1	4	2	1	22	1.7				
10.群馬					1	1		1								1	3					2	1	3	20	1.5				
11.埼玉		1				1	1	2	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	5	2	1	3	2	6	51	3.8				
12.千葉							1	6	2	2	3	7	2	4	5	4	5	3	3	2	2	6	9	5	71	5.3				
13.東京	10	6	4	10	10	11	12	11	14	21	18	18	19	27	26	29	23	25	24	22	24	17	21	14	416	31.3				
14.神奈川		1		1	1	4	1	3	4	2	5	3	4	3	5	3	5	5	8	4	5	5	5	1	78	5.9				
15.新潟				1		1		1								1	2							2	11	0.8	北陸・ 甲信越			
16.富山					2											1									6	0.5				
17.石川																	2								6	0.5				
18.福井																									5	0.4				
19.山梨					1	1										1		1							4	0.3				
20.長野							1	1														1	1		7	0.5				
21.岐阜																	1							1	2	0.5				
22.静岡						1	3		1							1	1							1	14	1.1	東海			
23.愛知		1			3	2		3	1	1					4	3	2	3	2	2	4	4	5	4	10	2			56	4.2
24.三重																1	1								8	0.6				
25.滋賀																								1	2	7			0.5	
26.京都									2			2	1	1											25	1.9	近畿			
27.大阪	1	1	1	1	3		1		4	2	1	8	14	6	8	10	10	15	17	19	17	26	26	9	200	15.0				
28.兵庫						2			1	2					2	1	1	4	5	3		3	3	4	3	34			2.6	
29.奈良										1	2	3	1			1		1	1	1				1	1	13			1.0	
30.和歌山																								1	1	4			0.3	
31.鳥取																								1	1	4			0.3	
32.島根						1																			2	0.2	中国			
33.岡山																								1	13	1.0				
34.広島							2	1	1								1	2	6			2	2	1	3	22			1.7	
35.山口					1																			1	1	4			0.3	
36.徳島																								1	1	1			1	6
37.香川																								1	2	2	7	0.5	四国	
38.愛媛																								1	1	16	1.2			
39.高知																								1	1	5	0.4			
40.福岡							1		2	2	2	2	1	1	1	1	2	4	2	2		3	1	3	1	29	2.2	九州 ・沖縄		
41.佐賀																									0	0.0				
42.長崎																								1	1	1	5			0.4
43.熊本																								2	2	17	1.3			
44.大分																									4	0.3				
45.宮崎																								1	1	7	0.5			
46.鹿児島																								1	1	10	0.8			
47.沖縄																								1	3	17	1.3			
合計	11	11	9	13	26	29	34	35	36	46	46	54	56	64	67	79	82	87	92	78	87	102	107	79	1330	100	1330	100		

※ 「構成割合」は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない
 ※ 平成21年度については、1月～6月の確定値と7月～9月の速報値で集計

ブロック別HIV抗体・核酸増幅検査陽性献血者

	平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年 (1月～6月)(確定値) (7月～9月)(速報値)		
	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり 件	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり 件	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり 件	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり 件	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり 件
北海道 ・東北	712,276	6	0.842	674,411	3	0.445	647,438	4	0.618	651,215	5	0.768	502,721	5	0.995
関東	1,611,354	34	2.110	1,548,970	37	2.389	1,559,391	36	2.309	1,621,408	40	2.467	1,275,569	35	2.744
北陸・ 甲信越	373,158	1	0.268	337,810	4	1.184	330,485	4	1.210	335,848	0	0.000	256,681	2	0.779
東海	561,908	6	1.068	540,167	5	0.926	545,248	8	1.467	562,610	11	1.955	438,549	6	1.368
近畿	879,585	23	2.615	817,075	25	3.060	807,758	30	3.714	833,556	33	3.959	646,411	16	2.475
中国	367,593	3	0.816	335,666	5	1.490	316,087	5	1.582	316,509	4	1.264	245,978	3	1.220
四国	194,477	2	1.028	164,763	2	1.214	161,533	4	2.476	166,332	4	2.405	129,808	5	3.852
九州 ・沖縄	620,251	3	0.484	568,995	6	1.054	571,610	11	1.924	589,760	10	1.696	459,362	7	1.524
合計	5,320,602	78	1.466	4,987,857	87	1.744	4,939,550	102	2.065	5,077,238	107	2.107	3,955,079	79	1.997

年齢別HIV抗体・核酸増幅検査陽性献血者

	平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年 (1月～6月)(確定値)		
	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり	献血者 人	陽性 件	10万人 当たり
16才～ 19才	445,664	2	0.449	381,352 (1)	2	0.524	324,414	5	1.541	308,019	2	0.649	147,931	0	0.000
20才～ 29才	1,329,692	25	1.880	1,188,738 (2)	29	2.440	1,135,102 (2)	38	3.348	1,141,746	41	3.591	577,031	16 (1)	2.773
30才～ 39才	1,429,245 (3)	32	2.239	1,361,658 (2)	43	3.158	1,369,241 (1)	35	2.556	1,391,141	50 (1)	3.594	706,492	24 (1)	3.397
40才～ 49才	1,078,146	10	0.928	1,048,055	9	0.859	1,088,410	17	1.562	1,171,449	11 (1)	0.939	620,356	12 (1)	1.934
50才～ 59才	778,846	8	1.027	766,625	3	0.391	770,663	5	0.649	785,280	3 (1)	0.382	410,926	1	0.243
60才～	259,009	1	0.386	241,429	1	0.414	251,720	2	0.795	279,603	0	0.000	155,160	0	0.000
合計	5,320,602	78 (3)	1.466	4,987,857 (5)	87	1.744	4,939,550 (3)	102	2.065	5,077,238	107 (3)	2.107	2,617,896	53 (3)	2.025

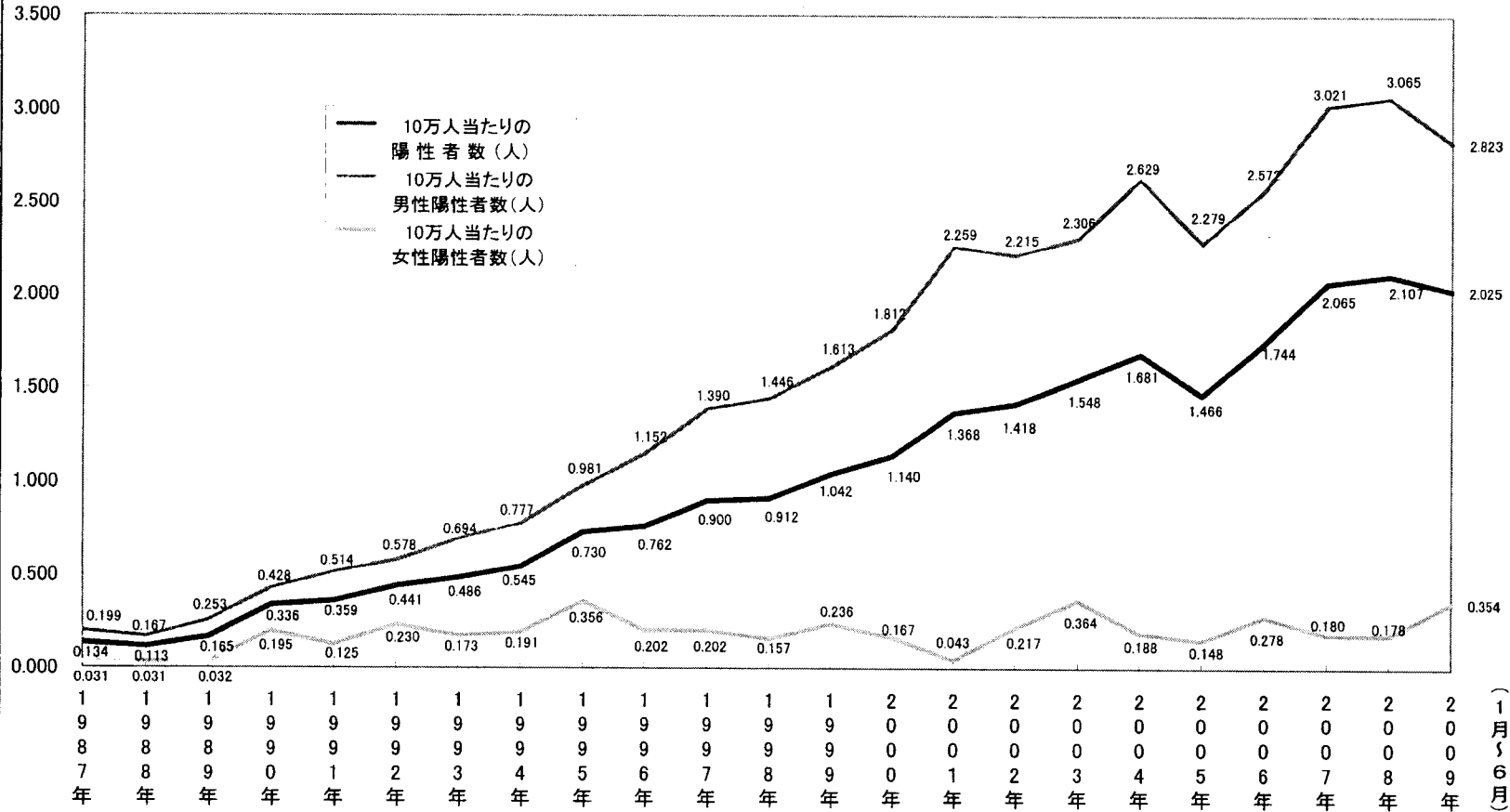
(注)陽性件数の()内女性

男女別HIV抗体陽性者数の年次推移(対10万人)

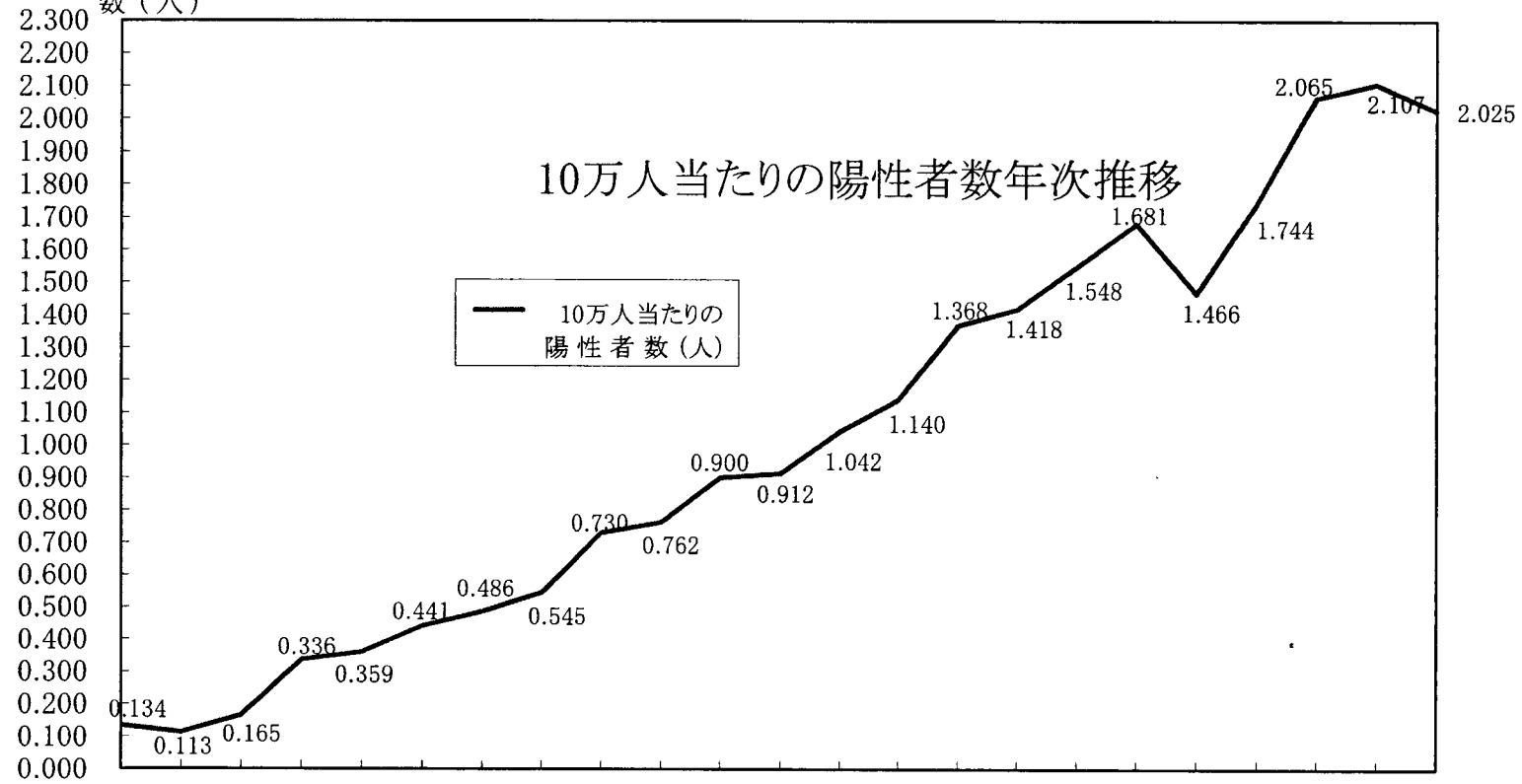
	男性献血者数 (人)	女性献血者数 (人)	男性陽性者数 (人)	女性陽性者数 (人)	10万人当たりの 陽性者数(人)	10万人当たりの 男性陽性者数(人)	10万人当たりの 女性陽性者数(人)
1987年	5,025,183	3,192,157	10	1	0.134	0.199	0.031
1988年	4,795,816	3,178,331	8	1	0.113	0.167	0.031
1989年	4,741,178	3,135,504	12	1	0.165	0.253	0.032
1990年	4,668,020	3,075,455	20	6	0.336	0.428	0.195
1991年	4,859,472	3,212,465	25	4	0.359	0.514	0.125
1992年	4,668,095	3,042,598	27	7	0.441	0.578	0.230
1993年	4,321,680	2,883,834	30	5	0.486	0.694	0.173
1994年	3,991,261	2,619,223	31	5	0.545	0.777	0.191
1995年	3,773,367	2,525,339	37	9	0.730	0.981	0.356
1996年	3,559,703	2,479,691	41	5	0.762	1.152	0.202
1997年	3,525,264	2,473,496	49	5	0.900	1.390	0.202
1998年	3,596,665	2,540,713	52	4	0.912	1.446	0.157
1999年	3,596,596	2,542,609	58	6	1.042	1.613	0.236
2000年	3,477,145	2,400,826	63	4	1.140	1.812	0.167
2001年	3,452,607	2,321,662	78	1	1.368	2.259	0.043
2002年	3,475,803	2,308,298	77	5	1.418	2.215	0.217
2003年	3,425,511	2,195,585	79	8	1.548	2.306	0.364
2004年	3,347,349	2,125,791	88	4	1.681	2.629	0.188
2005年	3,291,421	2,029,181	75	3	1.466	2.279	0.148
2006年	3,188,660	1,799,197	82	5	1.744	2.572	0.278
2007年	3,276,597	1,662,953	99	3	2.065	3.021	0.180
2008年	3,393,231	1,684,007	104	3	2.107	3.065	0.178
2009年(1月~6月)	1,771,233	846,663	50	3	2.025	2.823	0.354

10万人当たりの
陽性者数(人)

献血者における男女別HIV抗体・核酸増幅検査陽性者数の年次推移
(対10万人)



10万人当たりの陽性者
数(人)



1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年